

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Association of maternal sleep before and during pregnancy with preterm birth and early infant sleep and temperament

和文タイトル:

妊娠前・妊娠中の母体睡眠と、早産および新生児期の睡眠や気質の関連

ユニットセンター(UC)等名: 福岡UC

サブユニットセンター(SUC)名: 九州大学SUC

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2020 月: 7 巻: 10 頁: 11084

筆頭著者名: 中原 一成

所属UC名: 福岡UC

目的:

母体の妊娠前および妊娠中の睡眠と、早産および1か月児の気質・睡眠の問題との関連を調べること。

方法:

妊娠中の質問紙票より、妊娠前・妊娠中の睡眠に関する項目(睡眠時間や就寝時刻、睡眠の深さ、目覚めの気分)を用いて、それぞれの項目毎に層別化した。
早産や生後1か月での睡眠(5回以上の夜泣きや夜間より昼間の睡眠時間が長い)や気質(機嫌が悪い、頻回に泣く)をアウトカムに設定し、群間でのリスク比(RR)を算出した。

結果:

妊娠34週以降の後期早産に限ると、妊娠中の睡眠が非常に浅い群および目覚めの気分が非常に悪い群で、リスク比が有意に高かった。
(RR for very light sleep vs. normal = 1.19, 95% CI = 1.04–1.35; RR for very bad feeling vs. normal = 1.31, 95% CI = 1.02–1.67)
また妊娠前・妊娠中の母体睡眠と、児の1か月における睡眠や気質のアウトカムとの間にも有意な関連を認めた。

考察:(研究の限界を含める)

浅い睡眠や目覚めの気分が悪いといった症状は、母体の睡眠時の呼吸障害やうつ状態を反映している可能性があり、早産の原因となっている可能性がある。さらに短い睡眠時間などの母体の睡眠の異常が炎症を惹起し、これが胎児の中枢神経系の発達に影響を与え、生後の睡眠・気質に影響を及ぼした可能性が考えられる。
本研究の限界として、観察研究で未測定の交絡因子が存在する可能性があること、母体の睡眠および生後1か月の児の評価が質問紙票によることが挙げられる。

結論:

妊娠前および妊娠中の睡眠が、後期早産および生後1か月の児の睡眠・気質に関連している可能性がある。